

青葉通信

第15号

発行
社会福祉法人
中日新聞社会事業団
中日青葉学園

あおば館小規模ケア

「しらかば」に「さくら」誕生



しらかばエントランス

児童養護施設あおば館は「社会的養護の課題と将来像」を受けて、子どもたちをより小さなグループで育てる「小規模ケア」について検討してきましたが、学園が児童養護施設あおば館と児童心理治療施設わかば館との複合施設になって十周年の今年十月一日、小規模グループケア二か所を開設しました。青葉学園は昭和三十五年四月、虚弱児施設として開所、平成十年四月、児童福祉法改正で虚弱児施設から児童養護施設に種別変更。平成

中日青葉学園 理念

「和」

人の輪を広げ、豊かな心を育て、未来に向けて子どもと共に歩み、地域福祉の向上に貢献します。

方針

- 1 家庭的なホーム生活を通じ、子どもたちの情緒の安定を図り、安全で安心できる生活を提供します。
- 2 スポーツ・文化活動を通じ、仲間との連帯感、心身の健康、豊かな心、忍耐力を育みます。
- 3 児童の権利擁護に努め、子どもたちの言葉に耳を傾け、社会的な責任と自分たちの権利、義務について共に考え、自立を支援します。
- 4 地域との交流を深め、地域の子育て支援・ボランティア支援の役割を担い、地域に開かれた参加型の施設を目指します。
- 5 外部の専門機関との連携を深め、子どもたちにとって、より良い支援を行います。
- 6 「子どもの最善の利益」を念頭に、職員教育・研修を行い、自己研鑽に努めます。

十五年、園舎建て替えを機に、児童養護施設あおば館に児童心理治療施設わかば館を新設して複合施設として生まれ変わりました。児童養護施設青葉学園は、七十人の子どもたちが男女に分かれ、共通の食堂、浴場を利用する大舎制でした。平成十五年、あおば館建て替えに際し、グループを四つ（男

女各二）に分け、十五人から十八人が一つのグループで暮らす中舎制になりました。グループは一人部屋二、二人部屋四、四人部屋二、リビング、キッチン、浴室、トイレ、個別援助室、スタッフルームで構成。女子二（けやき、ひのき）あり、幼児だけは男女とも女子ホームに入り、小学校入学時に男女別となります。

国の新しい政策では「社会的養護の必要な子どもは、より家庭に近い環境で育てる。里親を優先し、施設では小規模グループ（六人から八人）にする」施設は平成四十一年までに小規模ケアを進める」という方針が示されました。

あおば館ではこれを受け、複合施設十年の今年十月に合せて小規模ケアに取り組みました。女子ホーム「しらかば」を二つに分割、幼児が入る「さくら」、小学生以上の女子が入る「しらかば」としました。小規模ではそれぞれ

れ、リビング、キッチン、浴室、トイレが必要で旧しらかばの構造を生かしつつ、リビング、キッチン、浴室、トイレを増設。しらかばは八人がそれぞれ個室、さくらは八人が二つの和室を使います。改修工事は六月から九月中旬まで。この間、しらかばの幼児は、小生以上は退所などで分散して暮らしました。九月下旬に新しい「しらかば」「さくら」に引っ越ししました。幼児ホームの名称は、学園の子ども、職員から募集、「木の名前を使う」「日本を代表する花」のほか、一番応募が多かった「さくら」に決まりました。

「さくら」に決まりました。昨年秋、しらかばを小規模ケア二か所に変えるという計画を発表した時、「幼児と別れるのは嫌」などの意見が子どもたちから出され、「職員が子どもたちにより関わること

ができる」という利点を説明して、理解を求めました。中舎ホームでは職員が十六人から十八人の子どもをケア、小規模では八人になりました。二ユーしらかばに入った子どもたちからは「職員が話をよく聞いてくれる。ホームが静かになった」と好評。幼児も年上の子どもがいなくて落ち着いて生活ができるようになってきています。

あおば館の小規模ケア第一歩は、スタートしたばかり。小規模ケアでは、職員と子どもの関わりが濃くなり、より質の高い援助技術が不可欠です。現場での経験だけでなく、職員同士のチームワーク、外部研修などを通してよりよいケアを進めます。また、中舎になっている他のホームについても今後どのように小規模化を進めるか検討していきます。

「社会的養護の必要な子どもは、より家庭に近い環境で育てる。里親を優先し、施設では小規模グループ（六人から八人）にする」施設は平成四十一年までに小規模ケアを進める」という方針が示されました。

あおば館ではこれを受け、複合施設十年の今年十月に合せて小規模ケアに取り組みました。女子ホーム「しらかば」を二つに分割、幼児が入る「さくら」、小学生以上の女子が入る「しらかば」としました。小規模ではそれぞれ

全社協・全国児童養護施設協議会

倫理綱領

- 1 私たちは、子どもの利益を最優先した養育をおこないます
- 2 私たちは、子どもの理解と受容、信頼関係を大切にします
- 3 私たちは、子どもの自己決定と主体性の尊重につとめます
- 4 私たちは、子どもと家族との関係を大切にしたい支援をおこないます
- 5 私たちは、子どものプライバシーの尊重と秘密を保持します
- 6 私たちは、子どもへの差別・虐待を許さず、権利侵害の防止につとめます
- 7 私たちは、最良の養育実践を行うために専門性の向上をはかります
- 8 私たちは、関係機関や地域と連携し、子どもを育みます
- 9 私たちは、地域福祉への積極的な参加と協働につとめます
- 10 私たちは、常に施設環境および運営の改善向上につとめます

2010年5月17日 制定

空気をきれいに

株式会社Peerlexさんが学園会議室とわかば館もえぎホームにエアープロットシステムを施工してくれました。特殊な薬剤を窓ガラスに塗ると太陽光によるプラチナ、チタン触媒の力で花粉症の原因になる花粉、ぜんそくを引き起こすダニ、埃を分解します。



ネットワーク会議に参加

被虐待児について日進市、中央児童・障害者相談センターなどの実務担当者が協議する日進市要保護児童対策協議会「ネットワーク会議」に九月から、あおば館、わかば館の家庭支援相談員が加わり、地域の状況を共有、施設としての役割を担うことになりました。



焼肉腹いっぱい

愛知県青年商工会の二十人が十月十四日、青葉学園を訪れ、子どもたち、職員に美味しい焼肉をプレゼントしてくれました。

あおば館は三つのグループに分かれ、庭や児童玄関前でわかば館は食堂でそれぞれバーベキュー式でカルビ、ロースのほか、トウモロコシ、シイタケなど商工会のメンバーが焼いてくれたものを次々といただきます。子どもたちは「こんなに柔らかくておいしい肉は初めて」などと大満足、食後、子どもたちの和太鼓クラブが、揃いの法被姿で太鼓をたたき感謝の気持ちを伝えました。



とまごの

名古屋で開かれた「につぼんど真ん中祭り」に参加するため来日した台湾政府公認のゲストチーム・タイムフオーターワンが前夜祭の八月二十三日、青葉学園を訪れました。

国立台湾芸術大学の学生と台湾交通部観光局、台湾観光協会など関係者計八十人。同大学の三チームが、ど祭り披露する演目など三曲を踊りました。カラフルな衣装で現代的で優雅なそして民族的なダイナミックな三つの演舞に子どもたちは目を奪われました。子どもと職員が和太鼓で「返礼」、昼食を一緒にとり、交流を深めました。台湾側から、記念品と寄付金十万円をいただきました。



ありがとうございました

五月から十月上旬までに多くの方からご支援をいただきました。児童の健全育成、安全対策などに役立ててまいります。ありがとうございました(敬称略、順不同)。

匿名(五百万円)、匿名(百万円)、匿名(五十万円)、服部工務店、中日新聞印刷、名西運輸(三十万円)兼松エレクトロニクス、日進電気、ヴァリダックス、鬼頭昌子、丸新舎、ナゴヤドーム、中日新聞保険サービス、中日高速オフセット印刷、中日オフセット印刷、中日制作センター、中日エージェン

進学応援

匿名の方(名古屋)から「子どもたちの大学など進学を応援したい」と五百万円の寄付がありました。

社会事業団の「進学等支援金」に組み入れ、次年度以降の進学希望者のため役立てます。



県社会福祉大会で表彰

第六十一回愛知県社会福祉大会が十月二十四日、県体育館で開かれ、武弘和通事務係長、相馬路子あおば館主任指導員が福祉施設職員として、松田正憲学園長が市社会福祉協議会役員として県社会福祉協議会会長感謝状を受けました。

近藤さん叙勲

近藤日出夫副学園長・わかば館長が二十五年春の叙勲で永年にわたる児童福祉の功労に対し、瑞宝単光章を受け、五月十日、皇居で勲章を授与されました。

二十五年人事

▽学園に副学園長を設け、六月一日付けで近藤日出夫わかば館長が就任しました。

不適切な関わり

六月下旬、あおば館職員が児童との関わりの中で適切ではない行為があり、職員と学園長に懲戒処分を行いました。再発防止とこのようなことが起きないように職場環境作りに取り組んでいます。

平成24年度 中日青葉学園決算

あおば館 (単位:円)			わかば館 (単位:円)		
収入の部		支出の部	収入の部		支出の部
1. 掛置費	180,220,970	1. 人件費	139,861,825	1. 掛置費	149,193,570
2. 補助金	21,315,600	2. 事務費	16,710,333	2. 補助金	8,876,000
3. 寄附金	3,584,954	3. 事業費	59,003,042	3. 寄附金	1,441,500
4. 雑収入	5,231,093	4. 固定資産取得	1,000,690	4. 雑収入	2,761,672
5. 利息配当	7,888	5. 修繕費	5,000,000	5. 利息配当	5,602
6. 繰入金	8,000,000	6. 人件費	1,000,000	6. 繰入金	5,000,000
7. 助成金等	0	7. 修繕費	1,000,000	7. 助成金等	0
8. 積立金取崩	0	8. 時期繰越金	0	8. 積立金取崩	2,905,115
9. 繰越金取崩	5,215,585			9. 繰越金取崩	0
合計	223,575,890	合計	223,575,890	合計	167,278,344

社会福祉法人中日新聞社会事業団
〒460-8511
名古屋市中区三の丸1-6-1
中日新聞社1階
電話 052 (221) 0580
ファクス 052 (221) 0839

中日青葉学園
〒470-0131
愛知県日進市岩崎町竹ノ山149-164

児童養護施設「あおば館」
電話 0561 (72) 0134
ファクス 0561 (74) 2315

児童心理治療施設「わかば館」
電話 0561 (74) 7752
ファクス 0561 (72) 7557

綱要後記
国の社会的養護の政策が「家庭のように育てる小規模化」へと大きく舵が切られ、あおば館も複合施設十周年の十月、小規模グループ以上を開設。あおば館職員は七年以上のグループと三年未満とが半々で、砂時計のような構成。子どもとの関わりはますます難しくなり、今後も小規模化が求められる中、職員育成が大きな課題となっている。